



# 半田市 ハザードマップ

## 津波浸水深・震度・液状化

半田市ハザードマップ（津波浸水深・震度・液状化）は、愛知県が調査した東海地震・東南海地震・南海地震等による被害想定から、半田市分を抽出したものです。あらかじめ、ご自宅、学校、仕事場周辺の津波浸水深・最大震度・液状化危険度といった被害想定結果を把握し、災害対策や災害時の行動に役立ててください。

被害想定では、「過去地震最大モデル」と「理論上最大想定モデル」の2種類のモデルで想定しています。

なお、被害想定結果は、平成26年5月に公表されたものです。



### 愛知県 東海地震・東南海地震・南海地震等

#### 被害予測

	過去地震最大モデル		理論上最大想定モデル	
	想定	被害予測	想定	被害予測
人的被害 (多ク方 発災時)	建物倒壊等 (※1)建物倒壊 (※2)建物倒壊 (※3)建物倒壊	死者数 約30人 (※1人)	約30人 (※1人)	約400人
	浸水・津波 (※4)浸水(津波)	死者数 約30人 (約10人)	約30人 (約10人)	約200人 (約100人)
	魚類倒壊等	死者数 (※人)	(※人)	(※人)
	火災	死者数 約30人	約30人	約300人
津物 (多ク方 発災時)	倒壊	全壊・焼失棟数 約700棟	約700棟	約9,300棟
	液状化	全壊・焼失棟数 約10棟	約10棟	約20棟
	浸水・津波	全壊・焼失棟数 約40棟	約40棟	約40棟
	魚類倒壊等	全壊・焼失棟数 約10棟	約10棟	約10棟
震度分布 面積率	7	0%	4%	45%
	6強	21%	55%	55%
	6弱	79%	0%	0%
	5強以下	0%	22%	22%
液状化 危険度	大	11%	11%	11%
	中	2%	0%	0%
	小	2%	0%	0%
	なし	9%	9%	9%
対象地なし	対象地なし	8%	8%	8%
	計算対象外	52%	52%	52%
ライフ ライン 機能支障 (発災1日後)	上水道	断水人口 約12,000人	約12,000人	愛知県による公表は ありません
	都市ガス	停ガス戸数 約24,000戸	約24,000戸	
	LPGガス	供給支障戸数 約1,800戸	約1,800戸	
	電力	停電軒数 約53,000軒	約53,000軒	
避難者数 (多ク方 発災時)	固定電話	不通回線数 約17,000回線	約17,000回線	
	携帯電話	停電地域率 81%	81%	
	下水道	機能支障人口 4,000人	4,000人	
	1日単 (うち避難者)	避難者数 約12,000人 (約1,000人)	約12,000人 (約1,000人)	
3日単 (うち避難者)	避難者数 約4,500人	約4,500人		
避難者数 (多ク方 発災時)	1週間単 (うち避難者)	避難者数 約25,000人 (約13,000人)	約25,000人 (約13,000人)	愛知県による公表は ありません
	1ヶ月単 (うち避難者)	避難者数 約10,000人	約10,000人	
	3ヶ月単 (うち避難者)	避難者数 約2,400人	約2,400人	
	6ヶ月単 (うち避難者)	避難者数 約5,600人	約5,600人	

※：被害予測 ※：数値処理により各項目の合計と一致しない場合があります。

愛知県から公表された津波浸水深の被害想定結果は、強い揺れや地震の液状化による被害を前提としており、地震沈下や堤防等の被災状況等で大きく変わります。

#### 「過去地震最大モデル」による想定 津波浸水深

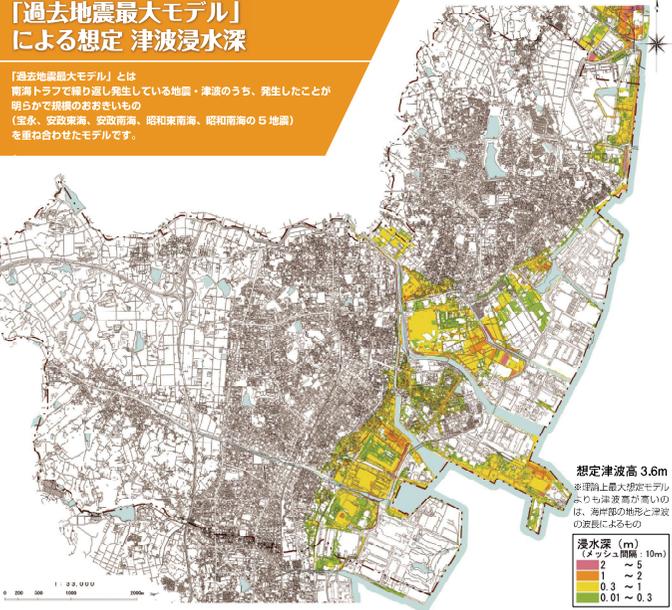


「過去地震最大モデル」とは、南海トラフで繰り返し発生している地震・津波のうち、発生したことが明らかで規模のおおむねの（宝永、安政東海、安政南海、昭和東南海、昭和南海の5地震）を重ね合わせたモデルです。

#### 「過去地震最大モデル」の津波浸水に用いた主な条件

- 初期潮位 (満潮位相当) T.P.+1.0m ※T.P.は東京湾平均海面
- 堤防条件 地震後に堤防の嵩さが75%低下。ただし、耐震性を有している箇所および液状化危険度が小さい箇所では、堤防の高さが50%低下。いずれの場合も構造物を破壊したら、破壊。
- コンクリート構造物 震度6弱以上で、地震発生と同時に破壊。

これらの条件により右図のような浸水範囲となります。



想定津波高3.6m ※理論上最大想定モデルより津波浸水深が高いのは、海岸部の地形と津波の波長によるもの

#### 家族の連絡先

家族は、はなればなれになったときの集合場所と連絡手段を確認しましょう。家族の連絡先を下の表に記入しておきましょう。

氏名	連絡先	避難する場所	家族の集合場所

#### 家族の通信手段

安否確認の電話は「災害用伝言ダイヤル171」。地震や津波などの災害が起ると被災地への安否確認の電話が殺到して電話がつながりにくくなることがあります。そんな時は「災害用伝言ダイヤル(171)」を利用しましょう。

#### 災害用伝言ダイヤル171の使い方

伝言の「発信」

ダイヤル171の後に

1 自宅の電話番号を市外局番からダイヤル

※「0」です。家族は全員の番号です。～○○区間になります。

発信時間 16:30～24:00 伝言受付時間 24時間

伝言の「再生」

ダイヤル171の後に

2 連絡を取りたい相手の電話番号を市外局番からダイヤル

登録されたメッセージを聞くことができます

利用できる電話  
一般電話（プッシュ回線、ダイヤル回線とも）、公衆電話、INS ネット、ひかり電話（ダイヤル式電話使用時は利用不可）並びに、災害時、NTT が避難場所などに設置する特設公衆電話から利用できます。

半田市からの情報発信  
半田市では、市ホームページ、同僚無線、ツイッター、緊急連絡メールなどによって、災害時の情報発信を行います。

#### 日頃からのとるべき行動

- 避難場所、避難ルートを決めておきましょう。いつ津波がきても対応できるように、避難場所の位置といくつかの避難ルート事前に決めておきましょう。
- 周辺の建物の高さを確認しておきましょう。避難場所が近くなく、すぐに避難できないというのために、堅牢な建物の高さを確認しておきましょう。建物は3階以上を目安として避難しましょう。
- 避難場所、避難ルートの確認をしましょう。避難場所、避難ルートを決めても、いざというときに有効に役立たない場合はありません。避難場所、避難ルートを決めたら実際に避難ルートを使用して、避難場所へ行ってみましょう。
- 持っていくものを整理しておきましょう。災害発生時に準備をしているのは避難が確実、命にかかわる危険性が大きくなります。事前に持っているものを決めて、整理しておきましょう。

#### 津波が発生したときにとるべき行動

- 常に津波の発生を警戒しておく  
強い揺れや長い揺れを感じたら津波がくると考えてください。感应的には小さな地震であっても、揺れが長時間続くような場合は、津波が来るとする危険性があります。小さな地震なので津波はないといった判断は禁物です。
- とにかく早く逃げる  
揺れがおさまらないうちに、津波警報や津波注意報の発表を待たずに、とにかく早く、少しでも高い所に避難しましょう。避難に行くには時間がかかりすぎるという場合は、近くの高台や堅牢な高い建物に逃げましょう。徒歩、車は必ず安全に逃げてください。強い揺れにより、堤防が崩壊した場合、津波の到達前に海水の流入が始まります。
- 安全が確認されるまで  
安全な場所へ避難が完了したら、完全に津波の危険性がなくなったことが確認できるまでその場所を離れられません。気象庁発表の正しい情報で確認しましょう。テレビ（ワンセグ放送）やラジオなどで最新の情報を入手してください。

#### 津波浸水深マップの見方

- 3.0m～ 木造家屋のほとんどが全壊する
- 2.0m～ 木造家屋の半数が全壊する
- 1.0m～ 津波に巻き込まれるおそれのあるおそれがある
- 0.3m～ 避難行動がとれなくなる

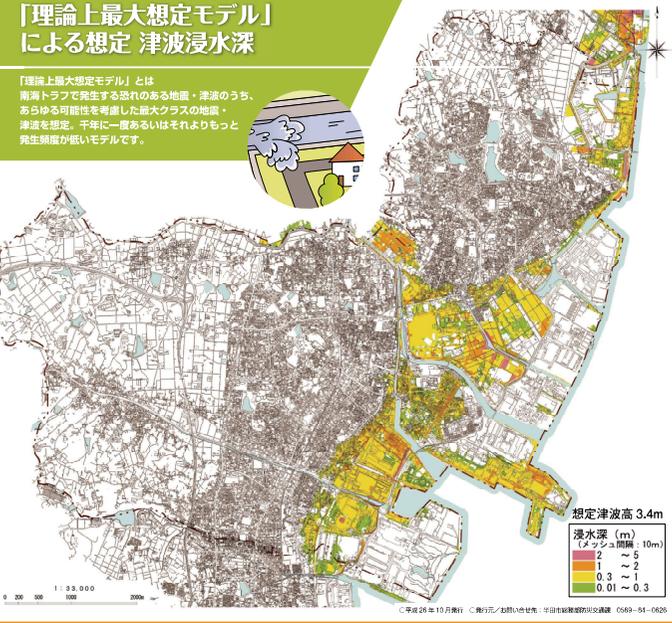
#### 「理論上最大想定モデル」による想定 津波浸水深

「理論上最大想定モデル」とは、南海トラフで発生する恐れのある地震・津波のうち、あらゆる可能性を考慮した最大クラスの地震・津波を想定。千年に一度あるいはそれよりもっと発生頻度が低いモデルです。

#### 「理論上最大想定モデル」の津波浸水に用いた主な条件

- 初期潮位 (満潮位相当) T.P.+1.0m ※T.P.は東京湾平均海面
- 堤防条件 地震後に堤防の嵩さが75%低下。構造物を破壊したら、破壊。
- コンクリート構造物 震度6弱以上で、地震発生と同時に破壊。

これらの条件により右図のような浸水範囲となります。



想定津波高3.4m ※理論上最大想定モデルより津波浸水深が高いのは、海岸部の地形と津波の波長によるもの